

Consolidated Business Results & Forecasts

2020年3月期 決算説明会

2020年5月12日

株式会社SCREENホールディングス
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO)

廣江 敏朗

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・本資料では、例えば、「FY2020」と示す場合、2019年4月1日～2020年3月31日の会計期間を表します。

2020年3月期 サマリー

■ 前期比で減収減益

- ・ 営業利益、経常利益ともにほぼ1 月予想どおりの着地
- ・ 当期純利益、特損計上などにより、1 月予想比で減少

■ SPE>> 下期の前期比、収益改善は進捗

■ 4Q受注、SPE、FTともに想定より上振れ

アジェンダ

- FY2020 連結業績
- FY2020 セグメント別業績概況
- 財務状況
- 今後の業績見通しなどについて
- COVID-19への対応について (5月12日時点)
- 前中期3カ年経営計画の総括と今後
- ESG関連の取り組み
- ご参考

FY2020 連結業績 前期比

(億円)	FY2019					FY2020						
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前期比	
売上高	725	975	823	1,118	3,642	582	899	778	971	3,232	△409	△11.3%
営業利益 営業利益率	51 7.0%	100 10.3%	36 4.5%	107 9.6%	296 8.1%	△44 △7.6%	78 8.7%	39 5.1%	51 5.3%	125 3.9%	△170	△57.6% △4.3pt
経常利益	51	101	33	106	292	△42	76	37	44	116	△176	△60.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	35	60	5	79	180	△29	53	23	2	50	△130	△72.3%

FY2020 連結業績

1月予想比

(億円)	FY2019	FY2020			FY2020 予想		差異
	通期	上期	下期	通期	1月予想 下期	1月予想 通期	
売上高	3,642	1,481	1,750	3,232	1,788	3,270	△37
営業利益 営業利益率	296 8.1%	34 2.3%	91 5.2%	125 3.9%	96 5.3%	130 4.0%	△4 -
経常利益	292	34	82	116	81	115	1
親会社株主に帰属する 当期純利益	180	23	26	50	61	85	△34
期末配当	97円			30円		46円	△16円
連結総還元性向	25.1%			28.0%		25.3%	-

>>当期純利益、特別損失（投資有価証券評価損や固定資産の減損損失）を計上、1月予想比で大幅減少

FY2020 連結業績 前期比

(億円)	FY2019					FY2020						
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前期比	
売上高	725	975	823	1,118	3,642	582	899	778	971	3,232	△409	△11.3%
SPE	471	657	582	813	2,525	412	656	515	720	2,305	△220	△8.7%
GA	114	124	115	128	482	98	129	115	112	455	△26	△5.5%
FT	103	150	100	137	492	48	80	124	98	351	△140	△28.6%
PE	32	39	20	31	123	21	26	17	34	100	△22	△18.6%
その他および調整	2	4	4	6	19	2	6	4	5	19	0	3.0%
営業利益	51	100	36	107	296	△44	78	39	51	125	△170	△57.6%
営業利益率	7.0%	10.3%	4.5%	9.6%	8.1%	△7.6%	8.7%	5.1%	5.3%	3.9%	△4.3pt	
SPE	37	78	49	93	258	△0	65	42	53	161	△97	△37.6%
GA	2	2	2	4	11	△2	11	0	4	14	3	27.2%
FT	9	19	△5	14	37	△35	5	2	2	△25	△63	-
PE	5	5	△0	△2	7	△0	0	△1	△0	△2	△10	-
その他および調整	△3	△4	△8	△2	△18	△5	△4	△4	△7	△21	△3	-
経常利益	51	101	33	106	292	△42	76	37	44	116	△176	△60.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	35	60	5	79	180	△29	53	23	2	50	△130	△72.3%

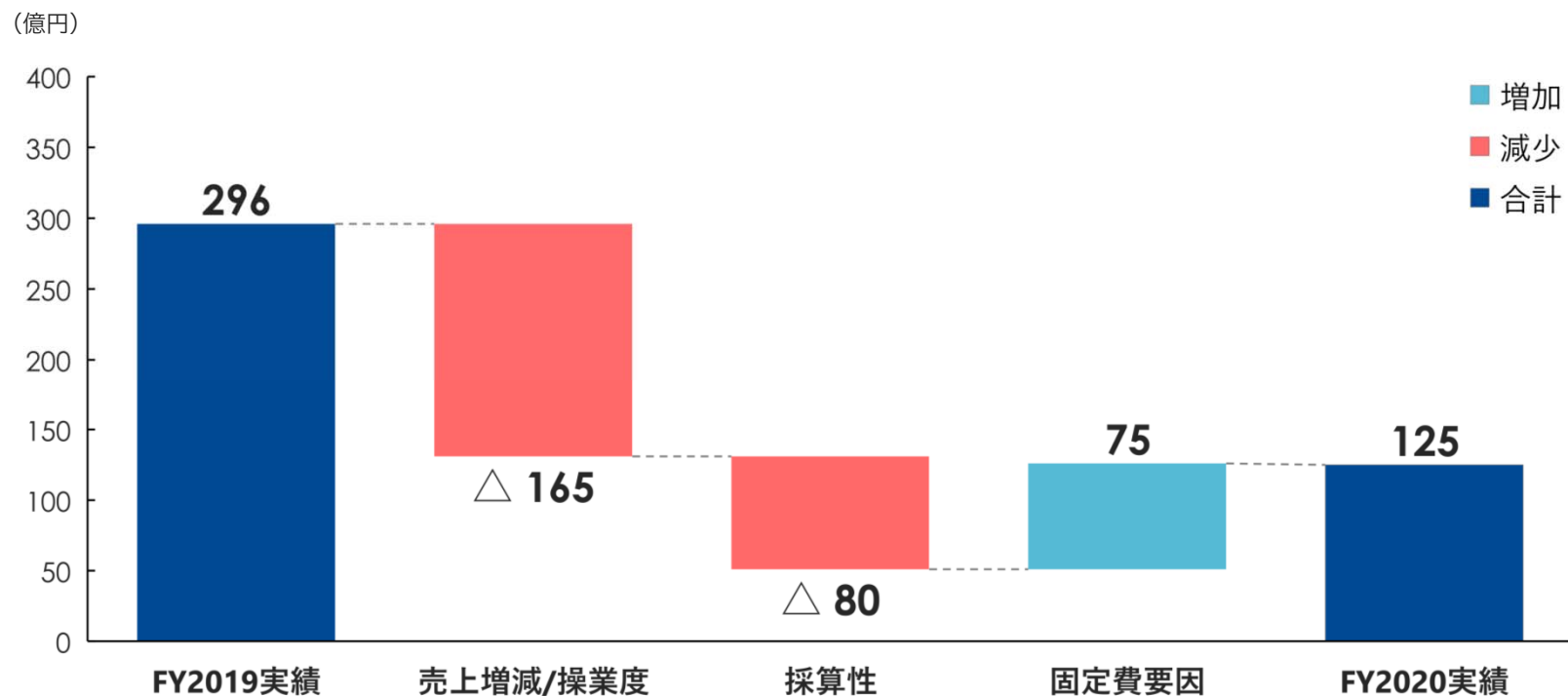
■ SPE : 半導体製造装置事業

■ FT : ディスプレー製造装置および成膜装置事業

■ GA : グラフィックアーツ機器事業

■ PE : プリント基板関連機器事業

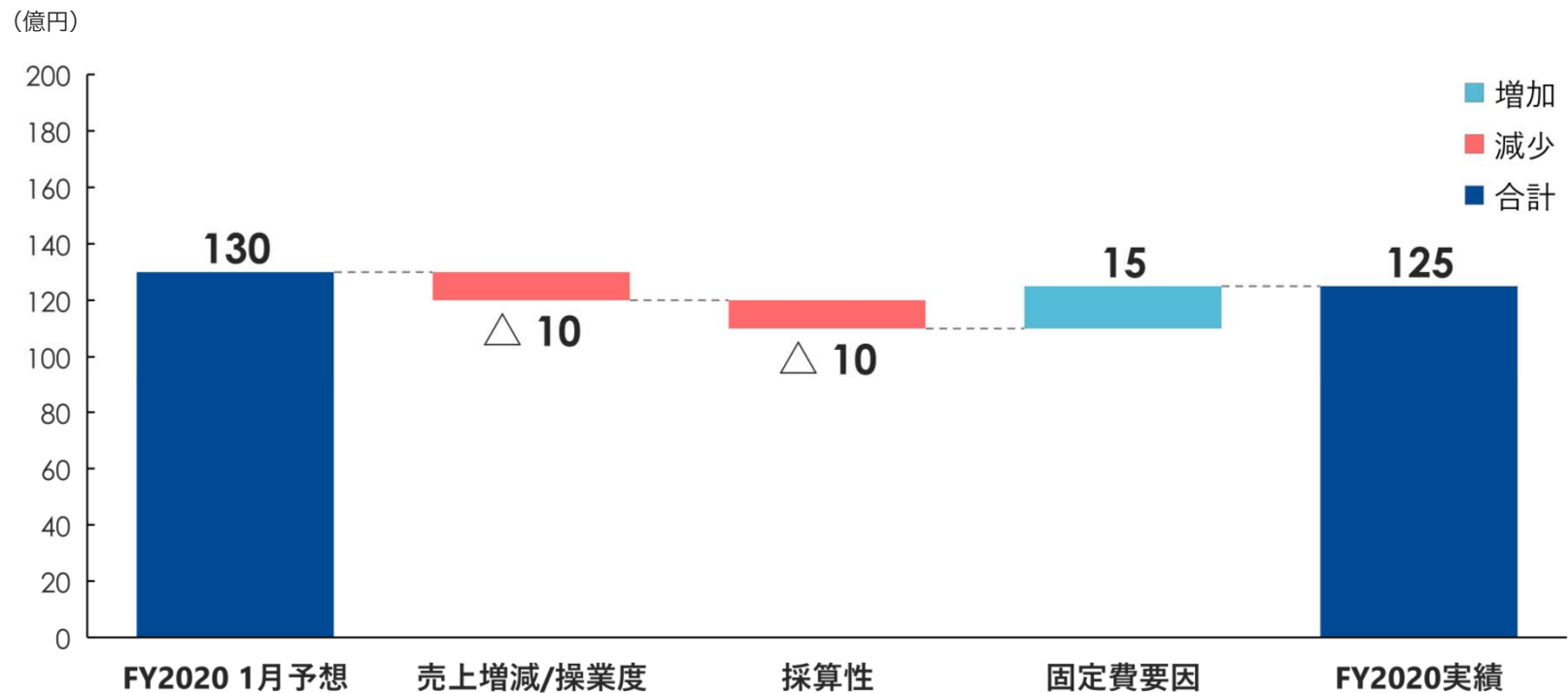
FY2020 実績 (FY2019比)



>>採算性低下をカバーすべく、固定費を大幅に圧縮

※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

FY2020 実績 (1月予想比)

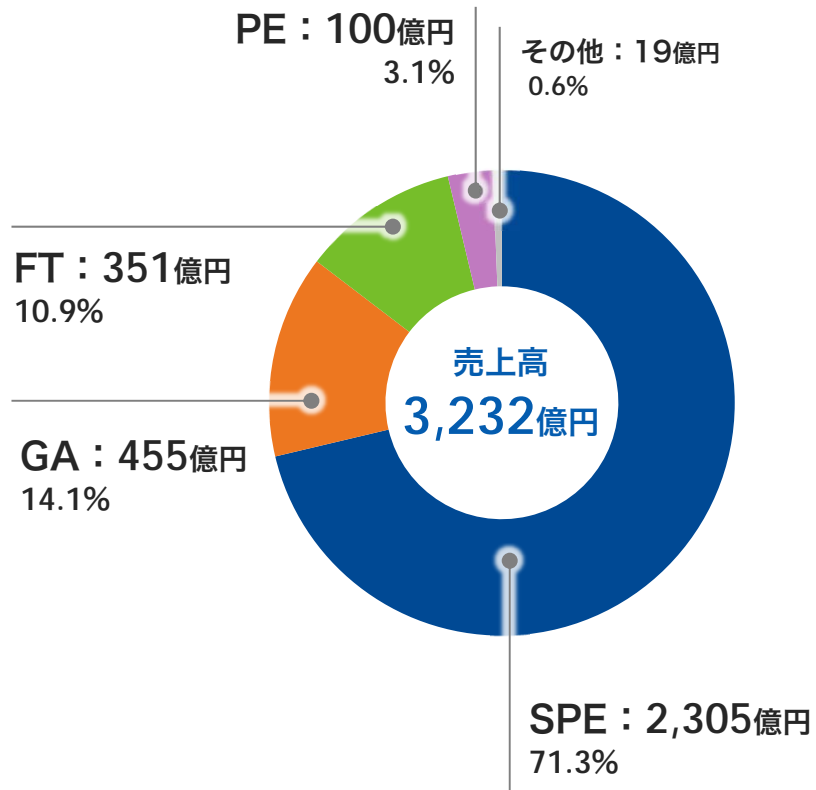


>>営業利益は、ほぼ1月予想比の着地
 >>採算性のマイナス分を固定費圧縮で着実にカバー

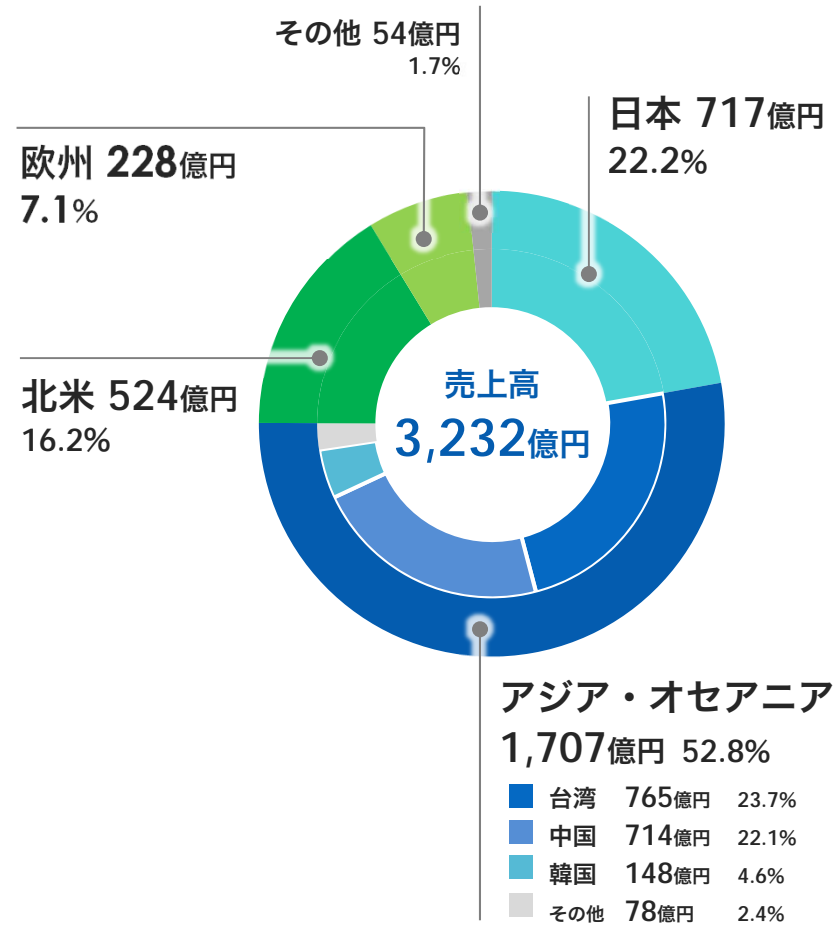
※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

FY2020 連結業績

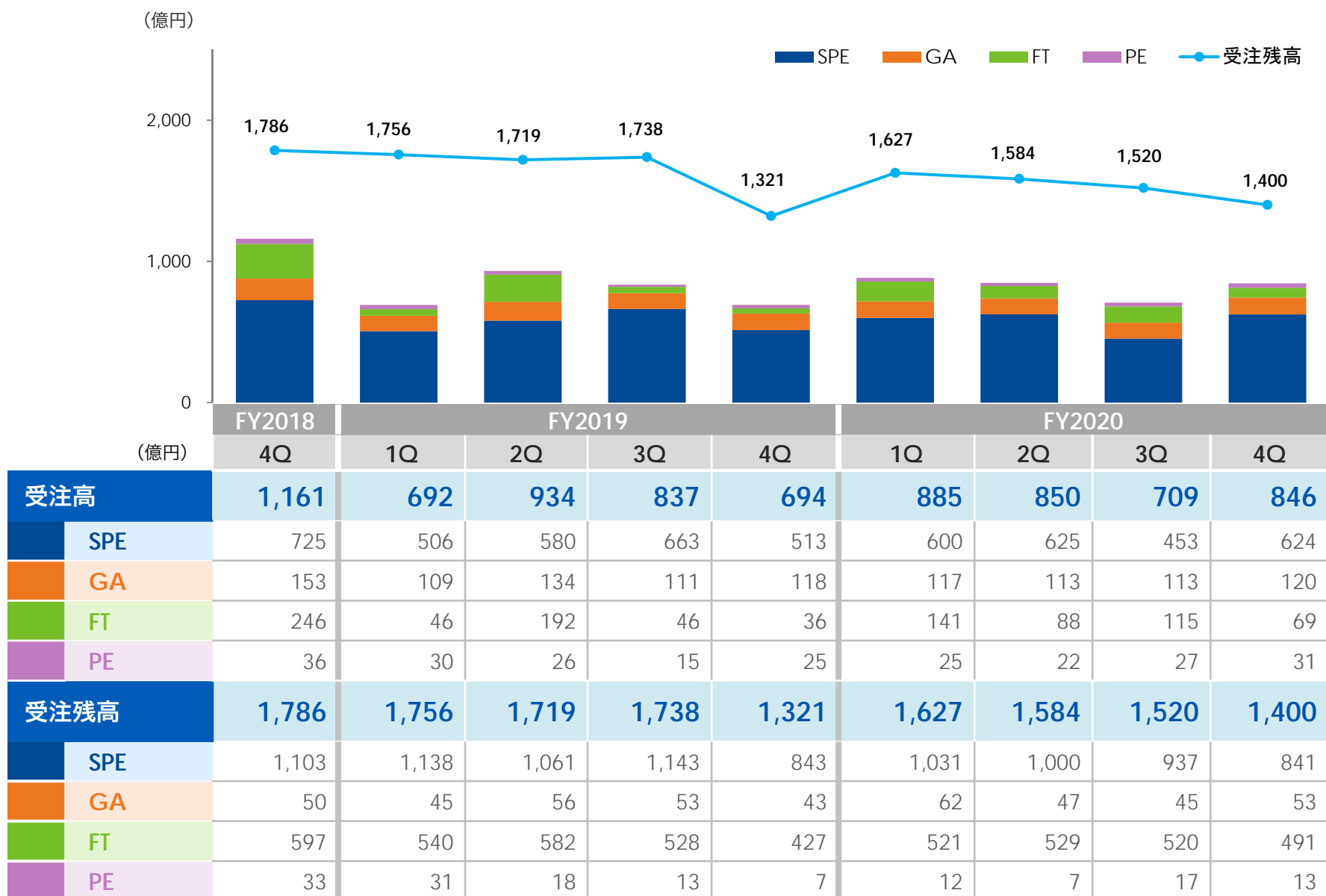
セグメント別売上高



地域別売上高



連結受注高／受注残高の四半期推移



セグメント別業績概況

今後の主な取り組みや状況

市場見通しなど

- WFEの中長期的な成長の見方に変化なし。5G関連をはじめとした通信関連のデバイス、サーバーの需要拡大の基調に変化なし
- 短期的には新型コロナウイルス（COVID-19）の収束時期とその影響の予測は難しく、CY2020のWFE予想は現時点ではコメントできない
- ファウンドリー：継続的な微細化投資
→最終需要に合わせた予定変更にも柔軟に対応、サポート力を高める
- ロジック：量産・デバイス世代交代が順調に推移
→顧客との連携を更に強化、タイムリーな装置供給を
- メモリー：本格的な投資再開に向けた準備期間
→大型投資再開に向けた準備を整え、現行投資への確実なサポートを強化
NANDの立ち上がりを注視
- 画像素子：スマホカメラの需要増を受け、引続き、設備投資意欲は旺盛
→投資実行タイミングに迅速に対応、新規投資ユーザーへの対応も強化
- その他：IoTに代表される通信関連、AIデバイス、パワー半導体などのさらなる成長に期待。
中国市場はポテンシャルが高く今後も注視

セグメント別業績概況

SPE

前期比

			増減	
	FY2019	FY2020		
(億円)	通期	通期		
売上高	2,525	2,305	△220	△8.7%
営業利益 営業利益率	258 10.2%	161 7.0%	△97	△37.6% △3.2pt

前四半期比

			増減	
	FY2020	FY2020		
(億円)	3Q	4Q		
売上高	515	720	204	39.6%
営業利益 営業利益率	42 8.2%	53 7.5%	11	26.6% △0.8pt

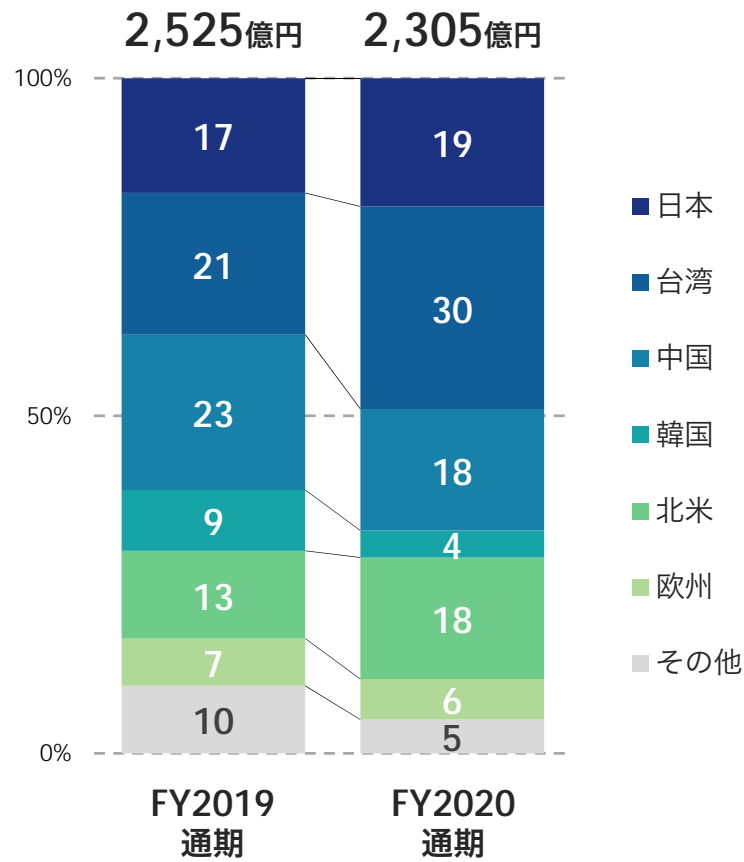
概況

- ・前期比：メモリー投資の停滞などにより減収減益
- ・前四半期比：ほぼすべてのアプリケーションが増加し、増収増益
- ・1月予想比：COVID-19による装置売上スライドは発生するも、PSの増加によりマイナス影響を最低限に留めた

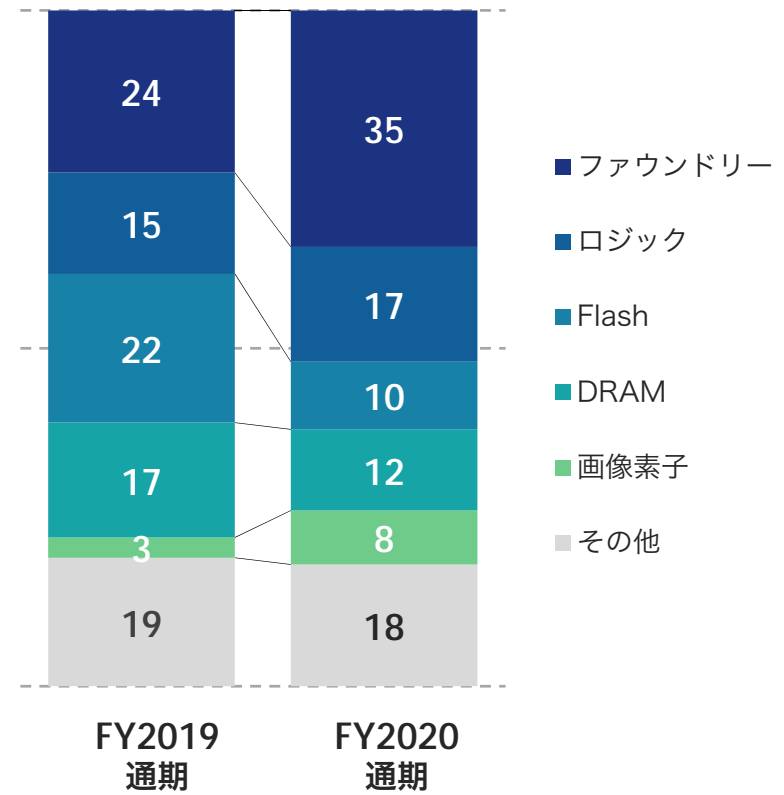
売上高比率

連結・地域別 / 単独・アプリケーション (デバイス) 別

地域別 - 仕向地ベース

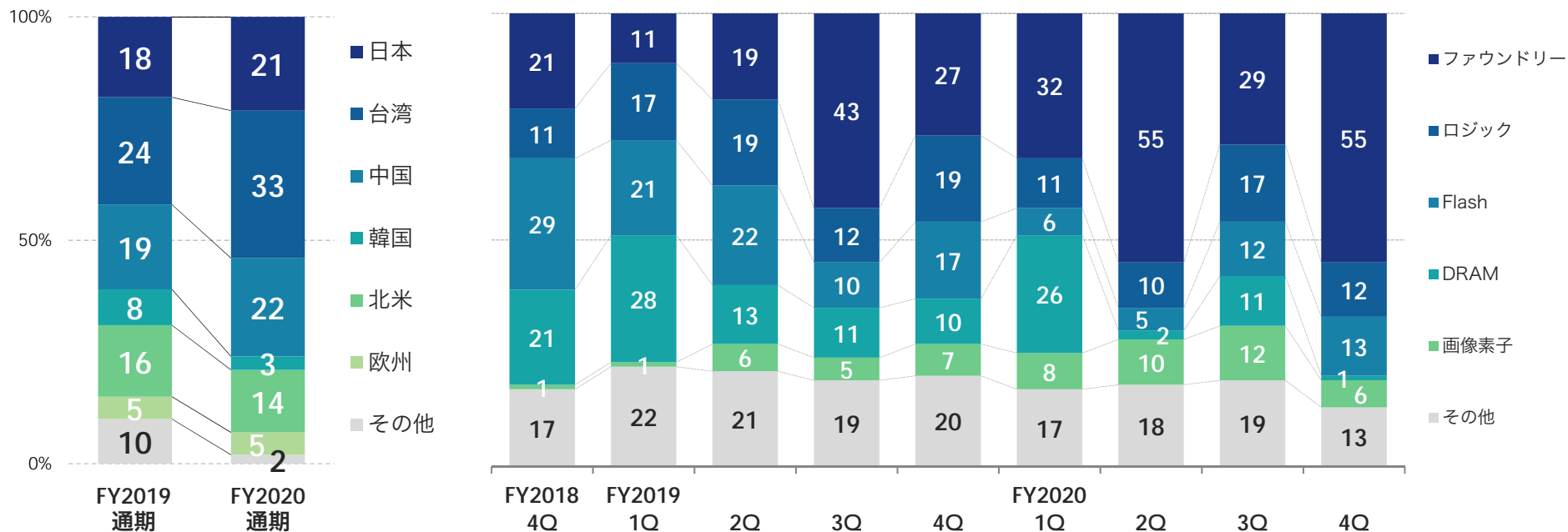


アプリケーション (デバイス) 別



単独・受注高比率

地域別 - 仕向地ベース アプリケーション (デバイス) 別 - 四半期推移



- ・地域別(通期)：台湾、中国、日本は増加、北米、韓国は減少
- ・4Q受注(連結)：予想より上振れ、624億円に着地 (3Q比+40%弱、前年4Q比+20%強)
- ・アプリケーション別：3Q比、再びファウンドリーが増加(50%以上)、DRAMは低調

セグメント別業績概況

GA

前期比

	(億円)	FY2019	FY2020	増減	
		通期	通期		
売上高		482	455	△26	△5.5%
営業利益 営業利益率		11 2.4%	14 3.2%	3	27.2% 0.8pt

前四半期比

	(億円)	FY2020	FY2020	増減	
		3Q	4Q		
売上高		115	112	△3	△2.8%
営業利益 営業利益率		0 0.8%	4 3.7%	3	4.3倍 2.8pt

概況

- ・前期比：インクなどのPSは堅調に増加するも、装置売上が奮わず減収。固定費削減が寄与して増益
- ・前四半期比：堅調なPSに支えられ、減収するも増益
- ・1月予想比：売上は計画どおり着地するも、営業利益は未達

セグメント別業績概況

FT

前期比

	FY2019		FY2020		増減
	(億円)		通期	通期	
売上高	492	351	△140	△28.6%	
営業利益 営業利益率	37 7.7%	△25 △7.3%	△63	- △15.0pt	

前四半期比

	FY2020		FY2020		増減
	(億円)		3Q	4Q	
売上高	124	98	△25	△20.6%	
営業利益 営業利益率	2 1.7%	2 2.3%	0	6.8% 0.6pt	

概況

- ・前期比：大型向けは増加した一方、納期スライドにより中小型向けが減少し、プロダクトミックスによる変動費率上昇を招き、減収減益
- ・前四半期比：装置の立ち上げなどの遅れから減収
- ・1月予想比：COVID-19の影響により減収するも、営業利益は想定どおり着地

セグメント別業績概況

PE

前期比

(億円)	FY2019	FY2020	増減	
	通期	通期		
売上高	123	100	△22	△18.6%
営業利益 営業利益率	7 6.2%	△2 △2.6%	△10	- △8.8pt

前四半期比

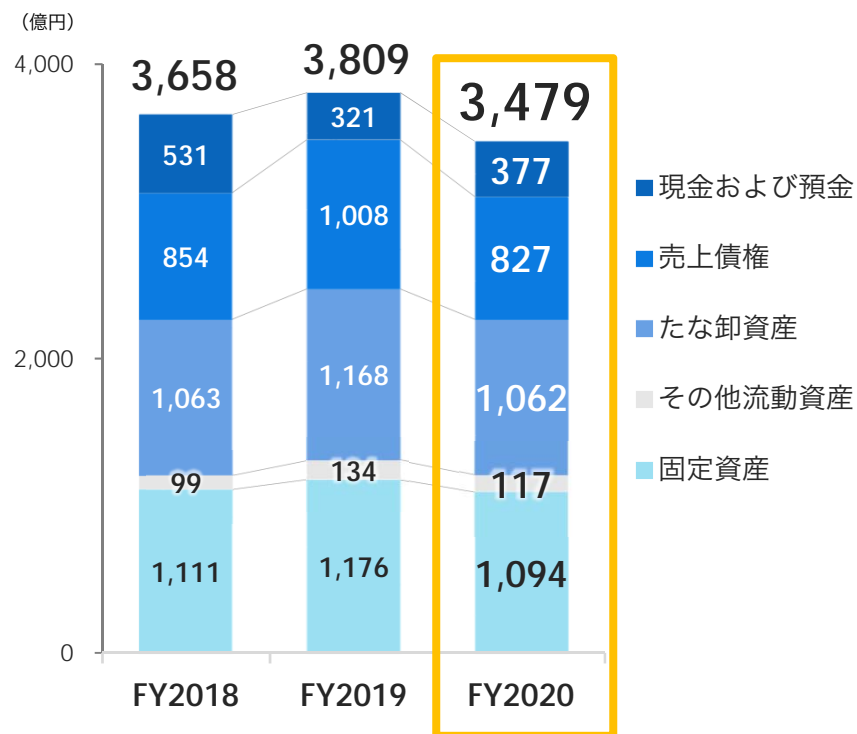
(億円)	FY2020	FY2020	増減	
	3Q	4Q		
売上高	17	34	17	96.4%
営業利益 営業利益率	△1 △8.6%	△0 △2.0%	0	- 6.6pt

概況

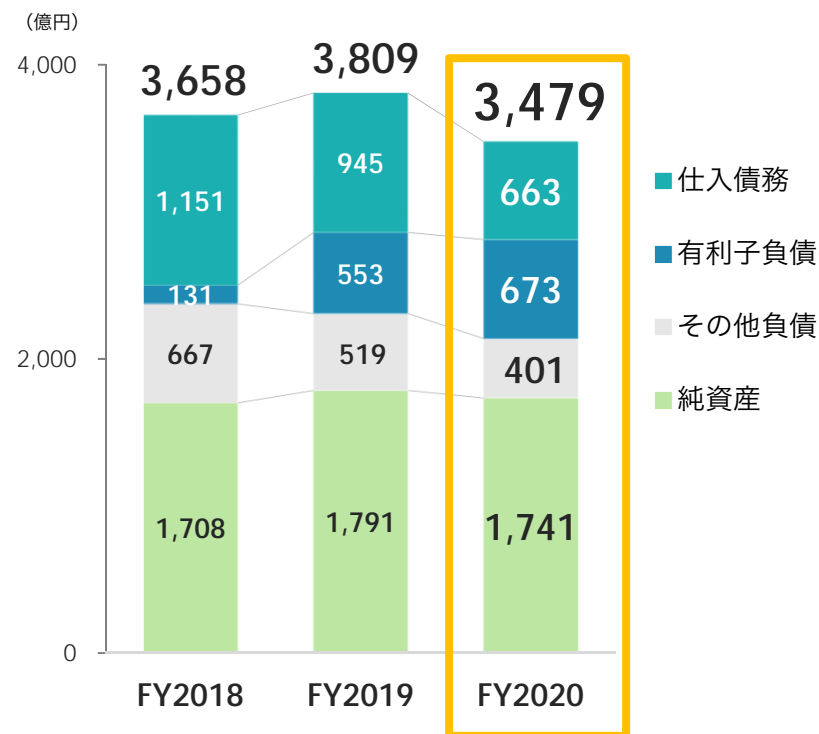
- ・ 前期比：スマホ関連投資の停滞により直接描画装置売上が伸びず、減収減益
- ・ 前四半期比：5G関連投資に支えられ、増収
- ・ 1月予想比：COVID-19の影響により減収したが、利益は想定どおり

財務状況：連結貸借対照表

資産



負債および純資産

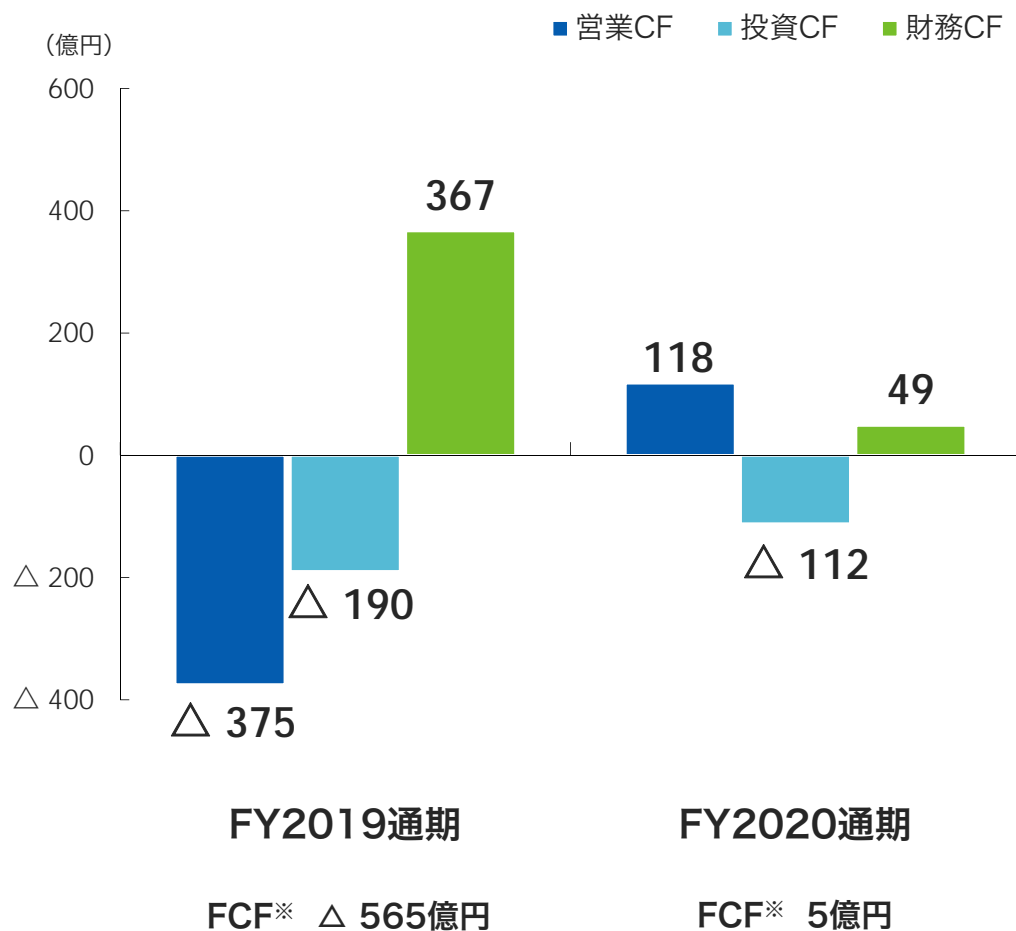


>>資産合計は、現金及び預金が増加した一方で、売上債権やたな卸資産の減少などにより、前年度末比、329億円減少

自己資本比率 **47.0%** (FY2019) ▶ **50.0%** (FY2020)

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を連結会計年度FY2019の期首から適用しており、連結会計年度FY2018の実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています

財務状況：連結キャッシュ・フロー



営業CF

売上債権やたな卸資産の減少、税金等調整前当期純利益、減価償却費などの収入項目が、仕入債務の減少などの支出項目を上回り、118億円の収入

投資CF

研究開発設備等の有形固定資産の取得により、112億円の支出

財務CF

配当金の支払いの一方で、短期借入金による資金調達を行い、49億円の収入

※ FCF：フリーキャッシュ・フロー

>>売上債権やたな卸資産の減少、固定資産の取得額減少などにより、FCFは前年度比改善

今後の業績見通しなどについて

- 通期業績予想については、COVID-19による影響を合理的に算定することが困難であり、現時点では未定として見送る。開示が可能となった段階で速やかに公表予定
- 5月に発表予定であった、新中期3カ年経営計画の発表を見送る（上記同様）
- SPE、顧客の投資意欲は依然強く、現状の全社1Q見通しは、前年同期に比べ、売上、営業利益ともに改善を見込む

COVID-19への対応について (5月12日時点)

■ 顧客対応・サポート

- 営業活動は、テレワークによる打ち合わせをベースに感染拡大防止に尽力。顧客要求には適切なタイミングで対応
- 装置の据え付け、立ち上げは国・地域により遅延影響があるも、可能な限り現地要員で対応

■ 生産・出荷体制

- 部品調達などのサプライチェーンへの影響は軽微。今後も注視
- 装置の生産・出荷への影響は軽微。安定供給の維持に注力

■ 社内体制

- 1月24日に災害対策本部を立ち上げ、社員関係者の感染状況の確認ほか、感染予防措置に取り組み中
→現在までに、4名の感染者（海外）を確認するも軽症で、既に全員回復済み
- 全グループ社員対象に、在宅勤務、時差出勤などを継続中

■ 財務状況

- COVID-19で先行き不透明な状況下、当面はキャッシュアウトを抑えつつ、厚めの手元流動性を維持。未使用の既存コミットメントライン300億円に加え、長期化に備えた追加借入枠について取引銀行と調整中（取引金融機関の支援姿勢は盤石）

前中期3カ年経営計画の総括と今後

Challenge 2019の振り返り

目標	3カ年推移			
		FY2018	FY2019	FY2020
1. 売上規模の拡大 単年度連結売上高 3,000億円レベル	売上高	3,393億円	3,642億円	3,232億円
2. 収益性の維持・向上 最終年度の営業利益率 13%以上	営業利益率	12.6%	8.1%	3.9%
3. 資本効率の維持・向上 ROE 15%レベル	ROE	18.2%	10.3%	2.8%

- 成長への投資により、売上高3,000億円規模の事業基盤を確立
→前半、過去最高の営業利益(率)や時価総額を記録し、ネットキャッシュポジションなどを達成
- 一方、後半の売上拡大局面における一時的なオペレーションの混乱や市場の下降局面における収益性低下・キャッシュフローの創出力に課題となった

>>新中計をベースに、あらためて企業価値向上を目指す

前中期3カ年経営計画の総括と今後

■ 今後の主要な取り組み

- 1. 市場環境・ニーズに対応した事業ポートフォリオの構築**
既存事業のすそ野拡大や新規事業創出への継続的なチャレンジ
- 2. 既存事業における収益性と効率性の追求**
既存事業における収益性改善と効率化改善によるキャッシュフローの創出
(ROIC指標の活用)
- 3. ESG経営の推進**
SBT (Science Based Targets) への参画、リスクマネジメントの強化、
社員が成長を実感できる企業へ

ESG関連の取り組み



当社グループは、国連が定める「持続可能な開発目標（SDGs）」を当社の企業理念にも通ずる目標だと捉えています。そのため、17のゴールのうち特に以下の6つの重点課題に積極的に取り組み、全人類が平和で豊かに暮らせる社会を目指し、地球規模で持続的に成長することに貢献します。

6つの重点課題



G（経営基盤）：守りと攻めのガバナンス体制の推進とESG情報の戦略的開示



取締役会の実効性評価実施

第三者機関によるアンケートを実施。評価結果の概要をWebに開示（5月末予定）

エンゲージメント面談を継続（FY2019～）

サステナブル経営を目指し、ESG側面の対話を強化中



2020年度投資家・アナリスト向けアンケートを3月に実施

- ・全体評価は5段階の4.0以上
 - IR資料の内容充実（カバー範囲の拡充）、および、決算説明会（ラージ）の内容は昨年比、改善したと評価されるも、全体平均を若干下回り、さらなる改善を目指す
 - よく活用される資料は、WebのFAQ

ESG関連の取り組み

■ E（環境）：「環境価値」を創造し、低炭素・循環型社会へ貢献



2030年度温室効果ガス削減目標が 「Science Based Targets (SBT^{*1}) イニシアチブ」の認定取得

- 2030年までに、スコープ1^{*2}およびスコープ2^{*3}における温室効果ガスの合計排出量を、2018年度比30%削減を目指す
- 2030年までに、スコープ3^{*4}に該当する販売製品の使用による温室効果ガスの排出量を、2018年度比20%削減を目指す



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

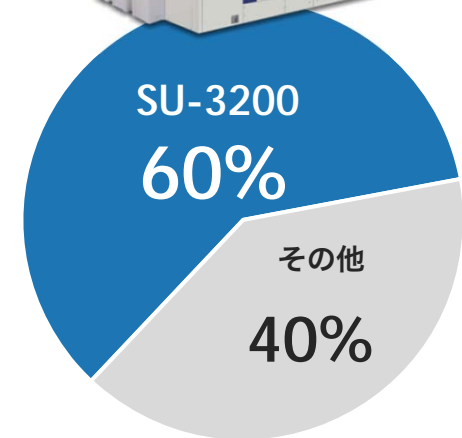
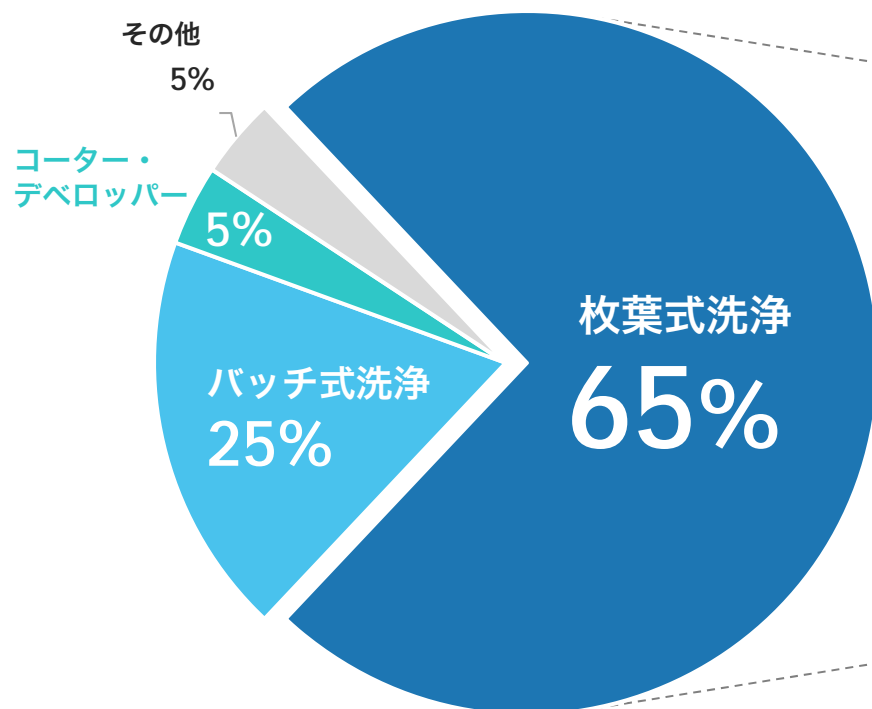
- ※1 パリ協定（世界の気温上昇を産業革命前より2°Cを十分に下回る水準に抑え、また1.5°Cに抑えることを目指すもの）が求める水準と整合した、5年～15年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと
- ※2 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）
- ※3 他社から供給された電気、熱、蒸気の使用に伴う間接排出
- ※4 スコープ1およびスコープ2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

ご参考：主要数値の変遷

(億円)	FY2016	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020
売上高	2,596	3,002	3,393	3,642	3,232
営業利益	235	337	427	296	125
営業利益率 (%)	9.1	11.2	12.6	8.1	3.9
総資産	2,700	3,006	3,658	3,809	3,479
自己資本	1,196	1,428	1,708	1,791	1,739
自己資本比率 (%)	44.3	47.5	46.7	47.0	50.0
ROE (%)	16.3	18.4	18.2	10.3	2.8
減価償却費	50	53	57	68	88
設備投資額	63	82	144	240	79
研究開発費	151	177	208	228	215
EPS (円)	396.75	511.96	608.62	387.10	107.37

ご参考：単独・売上高比率

洗淨装置 製品別売上高比率 - FY2020 通期



単位:%	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020
枚葉	70	65	65	65
バッチ	20	30	20	25
コーデベ	5	5	10	5
その他	5	0	5	5

※上記比率は、5%刻みの「約」表記